

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500271		
法人名	社会福祉法人 光仁会		
事業所名	グループホームさるびあ		
所在地	周南市城ヶ丘三丁目6番1号		
自己評価作成日	平成28年8月29日	評価結果市町受理日	平成29年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事に積極的に参加し、地域の方々との交流を深めるよう努めている。定期的に地域ボランティア慰問が行われている。春頃よりベランダにてプランターを活用し、花や野菜を利用者と職員で植え成長を観察し、収穫し食べることの喜びを味わって頂く。個別レクとして気分転換を含め買い物レクにも力を入れている。利用者の生活用品と一緒に買いに行くことで金銭感覚を維持している。1Fのテラスで外気欲をしながらかなやかな雰囲気の中でお茶を楽しんで頂いている。季節に応じた行事を行うことで、利用者に楽しさを味わって頂いている。日々の生活の中で、その方の能力に応じて、生活リハビリとして、手伝いや手作業等を職員と共にに行いながら、生き生きとした生活を送っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では外部研修の情報を収集され、職員の段階に応じて受講できるように、機会を確保しておられ、職員は必要な研修を勤務の一環として受講されています。法人事業所合同での研修では、外部から講師を招かれ、緊急時の対応や口腔ケアについて研修を実施しておられる他、感染症対策についても行われています。内部研修は、毎月実施され、全ての職員が働きながら、技術や知識が身につくように支援しておられ、利用者への日々のサービスの質が向上するよう取り組まれています。地域のクリーン作戦での清掃活動やダンボールの資源回収に参加されている他、地域の人の協力を得ての七夕飾りづくりや、地域の夏まつりのカレーづくりに、場所を提供されて、一緒につくられるなど交流されています。自治会集会の開催場所として施設内のスペースを提供されている他、災害時には、法人施設が避難所として市と協定を結ばれ、地域との協力体制を築くように取り組まれているなど、事業所自体が地域の一員として役割を担っておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度のスタッフ会議の冒頭に事業所理念と運営基本方針の唱和の励行を行うことで、専門職としての自覚を促し、基本方針に沿った実践に努めている。	地域密着型サービスとしての法人理念を事業所の理念とし、事業所の運営基本方針と併せて、月1回のスタッフ会議で唱和と確認を行い、理念や基本方針の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア活動等の協力を得ながら、利用者と地域の方との交流を図り、維持している。また、地域の一員として行事に参加させていただいている。	法人として自治会に加入し、地域のクリーン作戦で、清掃活動やダンボールなどの資源回収に職員が参加している。自治会集会の開催場所として、法人施設内のスペースを提供している他、地域の夏祭りには、カレーづくりに厨房を貸出し、利用者や職員も協力している。利用者は、夏祭りへの参加や小学校の運動会に出かけて、競技に参加して、地域の人と交流している。地域の人の協力を得て七夕飾りをつくり、玄関に飾っている。同建物内にあるデイサービスセンターのイベントに来訪しているボランティアのギター演奏や日本舞踊、周南シャッキリ体操などを見学している。ちぎり絵や囲碁のボランティアの来訪がある他、大学生の実習(1ヶ月間)を受け入れている。利用者は近くの公園まで散歩したり、弁当を持参して公園で食べたり、ゲートボールをしている人や散歩している人と会話して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃作業や資源回収に積極的に参加し貢献できた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回ご指摘頂いた問題点や課題について、具体的な改善に向けて積極的に取り組んだ。自己評価については事前に職員全員が書類に記入し共同して取り組んだ。	管理者は、スタッフ会議で評価の意義について職員に説明し、ガイド集を閲覧できるようにして、常勤職員全員に評価するための書類を配布して記入してもらい、管理者とユニットリーダーが話し合ってまとめている。前回の外部評価結果を受けて、評価への取り組みや、家族が意見を言いやすいように工夫しているなど、できるところから改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治体、地域の代表、市職員地域包括支援センターの方々と意見交換を行い、様々な提案や意見を頂戴しサービス向上に努めている。	会議は、法人内他施設と合同で2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や利用者の状況、事故報告、避難訓練などの報告をして、意見や情報を交換している。服薬に関する事故報告が多いことから、個人ボードの活用やダブルチェックでの確認など、服薬管理の方法の意見を活用している他、法人内施設合同での防災訓練に地域住民の参加を得るなど、サービス向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の参加はもとより、地域福祉課へは、提出書類や更新申請等で出向き必要に応じて相談することになっている。介護相談員の方の現場実習施設として、協力することができた。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換している他、電話やメール、直接出向いて相談や報告をして助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で情報交換をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全第一で、常に利用者へ見守りや声掛けでケアに取り組んでいる。玄関は、日中は施錠せず、声掛けや見守りを行い、夜間は入居者の安全確保の観点から、19:00以降翌朝6:30まで施錠をしている。9月に内部研修を行う予定。	職員は、内部研修で身体拘束について学び、理解している。スピーチロックや気になることがあるときは、管理者やユニットリーダーが指導している。事業所の玄関は施錠していない。外に出たい利用者には、職員が一緒に出かけて支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の気持ちに寄り添い、傾聴する姿勢を、職員会議等で徹底し取り組んでいる。外部研修に参加した職員が落とし込み研修を行い、職員全員が同じ認識を持てるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、成年後見制度を利用している方はいないが、将来において活用できるよう支援する。研修等に参加し理解を深め活用したい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、解約時の際に丁寧に説明を行い納得頂いている。改正の場合は書類により説明を行ったうえで、同意を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置して、受け入れ体制を整えている。ニュースレターにご意見、ご要望をお聞かせ頂きたい旨を掲載し啓発している。苦情受付担当者を両ユニットに配置し、より細かく、迅速に対応できるよう体制を整えた。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明し、周知している。玄関に職員の写真を掲示して、家族が来訪したときに、家族から職員に声がかけやすいように工夫している。家族の面会時に職員から声かけをし意見を聞いている。事業所だより送付時に、意見や要望を出してほしい旨を伝えている。電話での連絡時には、家族に利用者の近況を報告して、意見や要望を聞いている。ケアに関する要望には、その都度対応している。家族から、誤薬についての意見があり、苦情解決責任者、第三者委員と話し合い、改善に取り組んでいるなど、サービスの質の向上に活かしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフ会議で業務改善提案の集約や職員個別での相談や提案に応じられるよう管理者や上層部は聞く機会を設け改善に向けて取り組んでいる。	管理者やユニットリーダーは、月一回のスタッフ会議や各委員会、朝の申し送り時や随時に行う申し送りで、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で管理者やユニットリーダーが聞いている。個人記録の記録用紙の変更やチェックシートの改善、利用者の状態に合わせた勤務時間の変更など、職員の意見を反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規定を整備しており、職務と職責を確立し、仕事の業績を適正に評価し、その結果を人事、任用、給与に反映させている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月1回、スタッフ会議と併せて実施している。また、緊急時の対応や、口腔ケアについては、外部講師を招いて実施した法人全体の研修に参加し理解を深めた。外部研修については、職員毎のスキルの向上を意識して参加の機会を持つようにしている。	外部研修は、段階に応じて必要な研修へ、勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は4名の職員が受講している。法人各事業所合同での研修では、外部講師を招いて、緊急時の対応(救命法、事故対応)や口腔ケアについて実施している他、感染症対策(ノロウイルス、インフルエンザ、熱中症)などの内容で実施している。内部研修は、月1回のスタッフ会議と併せて、接遇マナー基本、身体拘束、介護虐待、外部研修の復命など実施し、働きながら学べるように職員を育てる取り組みをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との交流等、これから近隣の事業者と共同での勉強会やネットワーク作りはまだ十分に行われていないが、今後の課題として取り組んでいき、質の向上に努める。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時、入居に際し本人の意思を聞き取ると同時に適切なサービスが提供できるように情報収集を行い、ケアに取り入れている。利用者の話しやすい環境づくりや関係性に気を付けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、本人、家族の話聞き、遠方の家族とはメールにて細やかな情報交換を行い、困っていることに耳を傾け、不安なく生活をスタートさせることができるよう取り組んでいる。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要な支援を見極め、本人、家族の要望、意向に沿えるよう柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心のつながりを大切にしつつ、日々の生活の中で、出来ることを役割として担っていたことで、共に生活する者同士であることを意識してただけるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHに入居されて尚、より深くご家族と継続的に関わりながら過ごせるように希望やつながりを実現できるように本人と家族との絆を大切に援助を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流が途切れないよう、定期的に地域との交流に努めている。家族や親戚の人には、電話や手紙などでの交流が続くよう支援している。	家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話や携帯電話、手紙などでの交流を支援している。友人と一緒に教会に出かけたり、家族の協力を得て、行きつけの美容院の利用や、近所のスーパーでの買い物、温泉に出かけている他、自宅への一時帰宅や外泊、外食、墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの関係性も把握し、職員が適切に間に入るなどの取り組みを行い、入居者同士の支え合いの場が保てるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、退居された方に関して、これまでの関係性を大切にし、家族の相談に応じ相談や支援に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人にケース担当を決め、定期的に意向をうかがう機会を作って思いや意向を把握したり、本人の小さな事柄や言葉を介護記録に残しケアカンファレンス等で検討するようにしている。本人からの把握が困難な場合には、家族に聞き、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	入居時のフェイスシートや基本情報シートの活用や、日常の関わりの中での利用者の行動、思い、発言、状況、面会時の家族の思いや発言などを個別経過支援記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や在宅での生活の様子について、過去のサービス関係者や家族、関係のあった方々から、情報を収集するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活状況等を介護記録に気づいたことは連絡ノートや個人記録にて申し送りをしている。利用者一人一人にケース担当を決め、日々 きめ細かい観察をする事で、心身状況を把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に設定するサービス内容における実施状況を、ケア目標に照らして日々チェックすることで、介護計画に基づく実践とその結果を客観的に評価している。	本人の思いや家族の意向、看護師や医師の意見を参考にして、月1回のカンファレンスで話し合い、3ヶ月に1回のサービス担当者会議で検討して介護計画を作成している。毎日、実施モニタリング表で、サービス内容の確認を行い、3ヶ月に1回、モニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画の見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて、その都度、見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録や評価を元に、本人の状態の変化や要望に応じ、現状に即した介護計画の作成を行う。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に合わせ、受診や送迎介助、歯科往診、訪問理美容等、柔軟な支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHのケアだけでなく、身近な社会資源を把握し活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療にとどまらず、馴染みのかかりつけ医の継続や受診を家族の協力を得て生活を提供できるよう支援している。	利用者のこれまでのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、家族の協力を得て事業所で受診支援をしている。協力医療機関から週1回の訪問診療と訪問看護がある他、週3回、法人の看護師によるバイタルチェックや利用者や職員の相談に助言し対応している。必要に応じて歯科の往診がある。受診結果は電話で家族に伝えている。夜間や緊急時には、直接協力医療機関に連絡を取り、連携して対応しているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH内の看護師や訪問看護師とも相談しやすい関係性が構築されており、すぐに対応ができる体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護サマリーにて情報提供を行うなど、医療機関との連携に努めている。また職員が入院先へ訪ねて情報交換を行うなど、利用者の状況把握に努め、退院後の支援に備えるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所ができる対応について、ご家族に説明している。実際に重度化した場合は、入所施設や医療機関への移設も選択肢に含めながら家族と十分に話し合い支援している。	重度化対応、終末期ケア対応指針があり、契約時に、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度、主治医や家族、関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組むこととしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	看護職員を講師とする内部研修や消防署の協力を得て行う外部研修を定期的に行い、救急救命法やAED訓練等、応急処置や緊急時の初期対応について実践力を高めている。また、事故発生時は速やかに報告書を記して改善策の検討を行い、事故防止に取り組んでいる。	事例が発生した場合は、インシデント、事故報告にその場にいた職員が、対応策も含めて記録し、回覧して共有している。月1回のスタッフ会議で再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。救急救命法の受講や、内部研修で誤嚥や感染症（ノロウイルス、インフルエンザ）、緊急時の対応について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼夜の避難訓練、消火訓練を実施すると共に地域住民に協力を仰ぎ、実際に具体的に避難訓練まで行っている。今後も地域との協力体制を強化していく。	年2回の訓練の内、1回は消防署の協力を得て、法人内施設合同で、夜間を想定した消火避難訓練を地域住民7名（誘導5名、見守り2名）の参加を得て実施している。1回は、日中想定避難訓練を実施している。法人が、災害時の避難場所として、市と協定を結んでいる他、地域住民が緊急時の連絡網に加入しているなど、協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの理解を促すとともにコミュニケーションをとる際の指導を行っている。人生の先輩としての尊敬の念を持ち、優しく思いやりの心でケアの実践を心掛けている。日常のケアの中で不適切な声かけや対応等があれば、職員間で互いに注意している。	職員は、内部研修で接遇や認知症ケアについて学び、利用者を人生の先輩として、敬意を払って接しており、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な声かけや対応があれば、ユニットリーダーや管理者が注意している。個人記録等は、保管し、取扱いに注意している。守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくわかりやすい言葉や表現で関わり、自己決定の機会がひとつでも増えるよう取り組んでいる。また、自分の希望を思うように伝えられなくなった利用者に対しては、表情や仕草などから読み取れる本人の思いをご家族と話し合いながら支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣や体調に合わせ、自分のペースで過ごしていただけるよう、希望に合わせ支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりのその人らしさとは何かを考え、身だしなみについても継続できるように支援する。月に1度訪問理美容にて散髪を実施している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを取り入れたり、季節に合った献立を工夫している。利用者は、おしぼり巻き、食器洗いなど出来ることを職員と一緒にやるなど、利用者個々の活躍の場を意識しながら関わるようにしている。	食事は三食とも配食を利用し、ご飯と汁物は事業所でつくっている。年に数回の昼食（うな井、焼きそば、たこ焼き、お好み焼き）をつくっている。利用者は、テーブル拭き、トレイ拭き、おしぼり巻き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食や家族が参加しての敬老祝膳の他、おやつづくり（月見だんご、ゼリー、豆乳プリン、水ようかん、チーズケーキなど）、移動パン屋の利用、弁当を持参して公園で食べたり、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの体調や習慣に合わせ提供できるようにしている。美味しく食事が摂れるよう盛り付けの工夫や環境づくりに努めている。嚥下困難な方は食事形態の調整を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員全員が理解しており、食後は利用者に応じてた方法で口腔ケアを実施している。就寝時は、義歯を薬液で消毒し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に色分けで記録を行い、便秘の重要性を理解し把握しやすいように努めている。細かい水分摂取量の記入に努め1日の合計摂取量を把握している。食生活や日常生活から便秘予防に繋がられるよう取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を尊重し、時間帯や体調に合わせて、清拭・足浴等も対応している。入浴中はコミュニケーションを図りながら、個々に応じた支援に努めている。法人内他事業所の機械浴の利用や入浴剤を入れるなど一人一人の体調や希望に合わせて入浴を楽しめるよう工夫している。	入浴は毎日10時から11時30分までと、14時30分から16時までの間可能で、利用者の体調や希望に応じて、週3回はゆっくり入浴できるように支援している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴での対応をしている。入浴剤を利用して香りや色を楽しんでいる。入浴したくない利用者には、職員が交代したり、日にちや時間を変えたり、言葉かけに工夫しているなど、一人ひとりの入浴を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や体調面に応じ休息を促したり夜間の電気を減らす静かな環境づくりに努めている。夜TVを見て過ごされる方や昼寝をされる方へ居室の温度、寝具等配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の薬版に、薬の目的・副作用・用法等が記載されており職員が理解しやすい様工夫している。また、薬の変更がわかるようにホワイトボードに記載し確認することで、服薬ミスがない様取り組んでいる。また、症状の変化に応じて医師へ服薬の相談を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ご本人が長年培ってこられた習慣や趣味などを継続することで、その人らしい暮らしが継続できるよう支援している。	テレビ視聴、新聞や週刊誌を読む、写真集を見る、百人一首を書き写す、歌を歌う、カラオケ大会、習字、ちぎり絵、折り紙、ぬり絵、パズル、脳トレ、季節ごとの飾りづくり、編み物、雑巾縫い、ボタン付け、プランターでの野菜づくり、おやつづくり、食事づくり、テーブル拭き、トレー拭き、おしぼり巻き、食器洗い、掃除機かけ、モップかけ、手すり拭き、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、新聞紙でのゴミ入れづくりなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出等、利用者に日々の会話の中で要望を聞き取り個別対応として外出や買い物を支援している。地域行事に積極的に参加し交流を深めている。天気の良い日は、近所を散歩することで運動不足解消に取り組んでいる。	近くの公園への散歩、買い物、桜の名所めぐり、地域のクリーン作戦や夏祭りへの参加、家族の協力を得ての買い物、美容院の利用、温泉に行ったり、外食、一時帰宅、外泊、墓参りなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かっており、本人、家族へ同意の上必要な時に使えるようにしている。頻繁ではないものの職員やご家族と個別介助が必要な利用者に関して必要に応じ家族と協力して実践できるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、本人の希望に応じ電話を掛けたりしている。遠方の家族に月に1度必ず手紙を書くよう習慣として支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適当な場所にイスやソファが置いてあり、好きなように使えるように配慮している。不快指数表を目安に空調管理を行っている。	共用空間は窓から入る自然の光で明るく、テーブルや椅子、テレビやソファ、観葉植物、花の鉢を配置し、季節の花を生けてあり、壁面に、利用者と職員で作成した季節に合わせた作品を飾って、季節感を採り入れている。廊下に椅子を置いたり、テレビの周りに椅子やソファを配置して、利用者が思い思いに過ごせるように居場所づくりをしている。キッチンからご飯を炊く匂いがしていたり、利用者がテーブル拭きや食器洗い、洗濯物たたみをしているなど生活感を採り入れている。温度、湿度、換気、明るさ、音などに配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内で快適に過ごしていただくよう月に1度席替えをすることで席の配置などに配慮している。居室にTV設置され、好きな時にTV視聴され思い思いに過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に好きな花や家族写真を飾ったり、自宅で使用していた馴染みの家具を置かれ気持ちを持ちを安定され穏やかに過ごすことができる。	タンス、三面鏡、机、スタンド、花の鉢、本、化粧品、日用品など、使い慣れたものや好みものを持ち込んで、家族の写真や花を飾ったり、ぬいぐるみの犬を置いて、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内で転倒のリスクが高い場所や職員の目が届きにくい場所を把握し、事故防止に配慮した環境整備を心掛けている。トイレの場所がわかるよう張り紙で示すなど工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさるびあ

作成日：平成 29 年 2 月 26 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員の実践力を高めるために、応急手当や初期対応の訓練を定期的実施する必要がある	入居者の状況把握を行い、様々な外部研修と内部研修を通して、応急手当や初期対応を学び、全職員が実践力を身につけることで、事故防止に努める	定期的に看護職員を講師とした内部研修や、消防署の協力を得て行う研修の実施や、外部研修に参加し、応急手当や緊急時の初期対応について、全職員が実践力を高める	12ヶ月
2	5	運営推進会議では、サービスの向上に活かせるように、多方面からの意見や情報交換を行うために参加メンバーを拡大する必要がある	運営推進会議の参加メンバーの拡大をすることで、多方面からの意見や情報交換を行い、サービスの向上に取り組む	運営推進会議の参加メンバーの拡大として、事業に知見を有する周南市介護相談員や、地域住民の代表として所属する自治会の福祉委員の方にも、運営推進会議に参加して頂くことで、多方面からの意見交換と情報交換を行うことでサービスの向上に活かす	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。